

経営理念	学校経営目標 <健康> <自主> <礼儀> <目指す生徒像> ○運動習慣を身につけ、自己の健康管理ができる生徒 ○進んで学び、志を持ち、行動できる生徒 ○自分と他人を大切に思いやりあふれる生徒	
	一人ひとりの生徒を大切に	①生徒の可能性(夢)を引き出し、伸ばす教育を創造します。 ②社会において自立し、志を持って生きる基礎を養います。
	一人ひとりの保護者を大切に	①地域や保護者の信頼と願い(夢)に応える教育活動を展開します。 ②地域から愛され、保護者が安心できる学校であるために、学校を開く努力をします。
	一人ひとりの教職員を大切に	①教職員の英知とやり甲斐(夢)を集めた教育活動を推進します。 ②よい学びを創り出し、授業で勝負できる教師を目指します。

学校経営の重点目標	経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
健康教育の充実	① 命の大切さを理解し、自ら自分の健康を管理する力を育む。	睡眠や歯磨き、栄養バランス等、自分の健康を意識して生活している生徒が多い。メディアとの関わりについては、改善がみられた。	A	健康の項目に関しては、家庭の協力が不可欠であるので引き続き家庭と連携していく。保護者への情報提供や講座などによって意識啓発も行っていく。	自己評価は適切であると考えた。ただ保護者アンケート設問3の集計結果に誤りがあるため(％合計が100%を超えている)、正確な読み取りができなかった。タブレットやゲームに対して保護者の意識が高くなったことは今後、学校との連携を考える上で互いに協力し合う良い機会だと思えます。小学校より生徒の自己評価は高くなっているが、教員のA評価は大きく下がっている。これは授業中の居残りなどがあるからだろうか、う歯の増加については食事との影響もあるのだろうか？原因と経過観察が必要かとも思えます。健康への意識の高まりが見られる。	A	健康面については、保護者との粘り強い連携が必要となる。食育は専門的分野等の講習を活用していく。また、特に中学生は心の健康を大切にしてい、生徒一人ひとりと向き合う対策が必要である。主観的評価だけではなく客観的に評価できるものを検討する必要があると考える。スマホ所有者などに睡眠アプリを利用して睡眠の質を計測させるなどの方法を推奨し自己管理させることを一考してみようだろうか。また、一定期間、アナログ的に睡眠シートを記録させることも睡眠の質を意識させる上で有効かと思う。家庭全体でメディアとの向き合い方、ノーメディアデーを意識させたい。「体に良いもの」と食卓で伝えていくなど保護者の意識を高めたり、食の大切さを学べる機会を設定していく。
	② 運動に親しみ、生涯にわたって運動に取り組み習慣を身につけさせる。	保健体育の授業や部活動において、運動に親しみ、体力向上に努める生徒が多い。その反面、休日に家庭で運動をする生徒が少ない。	B	学校生活の中で体を動かす場面を多く設定するなどして、より運動に関わらせたい。	今後の改善策は適切である。中学校では部活動があるので運動部に所属している生徒はしっかりと運動ができていると思われ、評価欄に書いてあるとおり「運動に苦手意識を持つ生徒」への働きかけをどうするかが課題であると思う。部活動の種類も限られた中で、縄跳び大会などへの参加はとてよい。	B	改善策案について、学校生活の中で学校生活の中で体を動かす場面を多く設定するとはいつ、どのような場面を設定するのか具体的に述べられると、次年度の教育実践に生かされる学校評価となるのではないか。健康のために運動する「子どものために運動する」など、何のために運動するのかを明確にする。また、様々な動機付けをする。生涯の継続的なスポーツを考えたとき、難しいと思いますが、いろいろなスポーツを体験できる機会があると良いと思います。(ゴルフ、ダンス?)特に運動が苦手な生徒に対する支援を考えていく。授業では補えない部分をどうするか、生涯の健康を考えさせたい。
心の教育の充実	① 道徳科を柱とし、学校の教育活動全体を通して心の教育の充実を図る。	道徳の授業を学級担任を中心に、複数体制で行った。また、学校全体でも道徳的な視点から言動を考えさせた。	B	意図的に心の教育を充実させるための指導を充実させていく。(あいさつや言葉遣い、清掃への取組など)	今後の改善策は適切である。中学生が良いお手本を見ていると思えます。あいさつ、校内がきれいなことも特に小学生には見てほしいと思えます。あいさつについては、D回答を除けば過度に気にする必要はないと思えます。	A	精神・心の面ではデリケートなこともあるので、丁寧に見取りながらケアしていく必要がある。
	② 積極的に良い点を見つけ、個人の力、クラス力、学校の力とする。	「小さなこと」「いいねの木」の継続的な実践成果が見られた。	B	マンネリ化を防ぐために、その意義を確認したり、その都度称賛したりする場を設定したい。	今後の改善策は適切である。『いいねの木』など、継続しているものこそ、ポイントポイントで見直しを掛け、より良いものにしていく意識は素晴らしいと思えます。	A	精神・心の面ではデリケートなこともあるので、丁寧に見取りながらケアしていく必要がある。
	③ 他を思いやる豊かな心を育て、いじめの絶無を図る。	多くの生徒が家族や友人に思いやりを持って接することができている。また、生徒のトラブルには即対応できている。いじめ防止にもつながっている。	A	思いやりのある行動がさらに広がるよう指導を継続する。また、定期的なアンケート調査や相談を継続する。	A回答が大きく減少しその分B回答が増加している。こちらもその理由が知りたい。	A	生徒のトラブル回避でのアンケート活用にならない、保護者との意識の共有などにも活用できるのではないだろうか。
学習指導の充実	① わかる・できる授業を実践するとともに、基礎・基本の確実な定着に責任を持つ。	生徒の多くが授業が分かりやすいと答え、家庭学習も習慣化しているようになっている。学力の定着には課題がある。	B	生徒が主体となるような授業をさらに工夫していく。また、個に応じた指導を行い、学力向上に結びつけていく。	家庭学習の習慣化が図られている点に先生方の取り組みの成果が表れていると感じる。自主的に学習に取り組む生徒が出てきているよう好ましい傾向である。先生方や家庭での褒める言葉かけがますます大切になってくると思う。家庭学習が習慣化できたことは素晴らしいことと思えます。保護者から自主学習のやり方についての意見がありました。統一する必要はないと思えます。わかりやすい授業についての自己評価A+Bが50%であれば要因を探る必要があると感じる。	B	今後、質や量の面にも配慮していただければさらに生徒の学力向上が期待できると感じる。一部学習について行けない生徒への対策も必要である。中学校段階では既存のものに疑問や反発を抱く時期であるので、学ぶことの意味を生徒たちが納得することが大切。保護者や教職員だけではなく、さまざまな場面で活躍している方々の考えに触れさせることで自分の生き方考えるような場を提供する取り組みを継続してほしい。やり方がわからなくてやらない、もしくはやり方、やる対象が固定化しているとしたら、フォローすることは必要だと思います。効率をアップさせるなど、学びの方法にも着目させたい。
	② 共に学び高め合える授業を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。	ICT機器を活用し、思考力や表現力を高めるような協働的な授業が増えた。	B	ICT機器はより効果的な活用をしていく。また、生徒の思考過程を踏まえた授業実践を行っていく。	「発表しやすい場の設定や発言以外の自己表現方法、間違いを許容する安心感のある関係性」を意識した指導を継続していることは高く評価できる。今後もこの視点を大切に指導に期待しています。学校教育の根幹は授業にあります。昨年に比べてA回答が減少しC回答が増加しています。その要因把握に努め、授業の改善に努めてほしい。	B	評価項目については、評価項目の内容に対応させるのであれば、ICT活用状況に留まるのではなく、ICT活用により生徒の思考力・判断力・表現力の高まりがどの程度みられたか具体的に評価する必要があるのではないか。表現力の向上については、演劇のワークショップなどが参考になると思えます。
	③ 夢や目標を持ち、達成しようと、主体的に学習する習慣を身につけさせる。	進路学習や卒業生の講話を通して、自分の将来を考える機会を多く持つことができた。	A	キャリア形成のために計画的に講演会を設定したい。より効果的になるよう講師選定や内容も工夫したい。	小学校と比べてB回答が大幅に多くなっているのは、生徒たちが好ましい形で他者を意識しながら成長していることが窺える。	A	周囲に流されず、自分の意見がもてる生徒の育成につながるよう、様々な体験・経験を積み重ねてほしい。
生徒指導の充実	① 自尊心や自己有用感を高める生徒指導の充実を図る。	学級の係活動や委員会活動に責任をもって取り組む生徒が多い。	A	本校の伝統として、後輩に引き継がれても同じく活動できるよう意識化を図りたい。	中学生なので、自分と他者の関係性を反映した言葉づかい(例えば敬語、謙譲語等)を意識させる指導を望みたい。	A	自分に任されている役割分担が他者の役に立っていることを実感できる場や声かけを設定することでより一層責任感や有用感が醸成されていくと思う。
	② あらゆる場面で、自分で考え、判断し、行動できる力を育てる。	自分の役割を自覚して係等の活動に自主的に取り組むことができている。	B	中学生として、自分で考え正しく判断できるように今後も指導していく。また、校外の活動においても同様に取り組んでいく。	今後の改善策は適切である。	B	生徒の個性を尊重する観点からの働きかけがあればいいのではないかと思います。言葉が乱れるのは感情の昂りに起因することが多いので、アンガーマネジメントを紹介することも大切かと思う。
	③ 不応、支援が必要な生徒やその保護者に対し、組織的・計画的に支援を行う。	毎日楽しく登校できている生徒の割合が高いが、その反面、登校したくないと感じることがある生徒がいる。	B	より悩みを話せたりする校内の環境作りを充実させる。また、生徒や保護者が相談しやすい体制も整えていく。	楽しく登校できていない生徒が20%いるということに対して今後対策が必要である。	B	学校の教育活動をさらに充実させ、達成感・自己有用感などを与える場を設定・工夫するなどをしていくことが大切である。
組織力の充実	① 教職員間の連携を図り、常業ならでは小中一貫教育を推進する。	乗り入れ授業や集会行事など小中合同の取組を実践できた。生徒や保護者からもその良さが認められている。	B	小中一貫教育についてはより効果的に実施出来るように、小中の情報交換などの連携を密にしていきたい。	小中連携が推進できており、学校運営がスムーズである。	A	地域の方と触れ合うことで、あいさつや返事などの礼儀を重んじ、思いやりなどの心が育つと思われる。関係者の負担増にならないよう質的向上を図りながら進めていってほしい。
	② 常に良い授業を目指し、互いに学び、高め合える集団を目指す。	積極的に小中合同での研究授業を実施することができた。	B	授業研究のみならず、普段の乗り入れ授業や互見授業などより多くして、児童・生徒の学びを生かして授業実践したい。	今後の改善策は適切である。	A	学びの習慣化、学力向上と結びつけ、小中一貫の良さを生かし学びが広がるように今後も実践して欲しい。
	③ 生徒や保護者、地域の信頼に応えるべく、高い倫理観を持ち行動する。	全職員で服務倫理全体会を工夫して開催し服務規律を高かった。	B	保護者や地域の方を巻き込んだ会を設定したい。また、要望等には真摯に対応したい。	今後の改善策は適切である。	A	今後も工夫して取り組んでいってほしい。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力が必要 D：大いに努力が必要

※学校関係者評価は常葉小中学校運営協議会委員による。